

会員募集中！

AnCo では、産学官民の多様なメンバー同士の交流や意見交換の機会を重視しながら、メンバーの関心や取組みにあわせて柔軟な活動を推進しています。

＼ こんなニーズがある方に ／

企業・団体

- ✓ 新たな産業の創出やマーケット開拓したい
- ✓ サービス・製品の実証基盤を開拓したい
- ✓ SIB・健康づくりを目指したい
- ✓ CSR/ESG 活動に力を入れたい

自治体

- ✓ 社会課題解決を実践したい
- ✓ 社会的インパクト評価を導入して、エビデンスに基づいた政策を立案したい

学術機関・研究機関

- ✓ 研究の実証フィールドを探している
- ✓ 共同研究のパートナーを探している

市民

- ✓ 学びや様々な知識を得たい
- ✓ 新たなつながりをつくりたい

会員種別・年会費

正会員（議決権あり）					
会員名	企業会員			関係団体会員	
分類	大企業	中小企業	スタートアップ	医療・福祉	スポーツ 文化芸術
会費	25 万円	10 万円	5 万円	5 万円	5 万円

賛助会員（議決権なし）							
会員名	企業会員			地方公共 団体会員	大学等 学術機関	個人会員	学生会員
分類	大企業	中小企業	スタートアップ				
会費	25 万円	10 万円	5 万円	無料	無料	1 万円	無料

※その他「特定個人会員」：資格要件（Web サイト FAQ 参照）を満たし理事会による審査で認められた者で、理事またはアドバイザーへの就任を前提とする。

入会方法

Web サイトの入会申込フォームへ登録をお願いします。

地方公共団体 7 団体、企業・団体会員 13 団体、
学術機関 10 団体、個人会員等 30 名の計 60 会員で活動中。



WEBサイト



YouTube

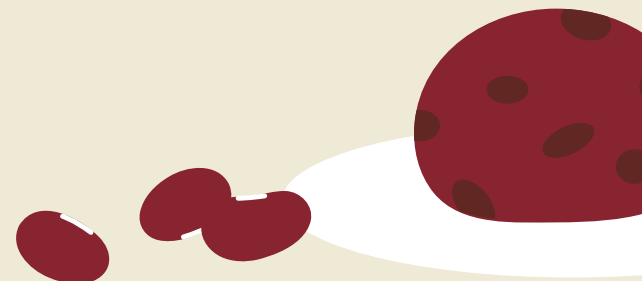
AnCo 事務局 info@annei.org

2507BP

AnCo

一般社団法人 安寧社会共創イニシアチブ
Est. 2024

つないで、
練って、
味わい、
ひろげる



多様なソーシャルグッドを生み出したい 人や組織をつなぐ“ハブ”。

AnCo の機能 —— つないで、練って、味わい、ひろげる

つなぐ 分科会 / コーディネーション / チャット



AnCo は、「こんなことやりたい!」を持ち寄って、仲間と出会う場所です。産・学・官・民がつながる共創のハブであり、同じ思いを持つ仲間と出会い、新しい可能性を見つけること、実装につなげることができます。

練る 分科会 / セミナー



つながった人たちと、新しいアイデアや活動を形にします。未来の空間や、やさしい技術も、一緒に練り上げます。主に“分科会”で、メンバーの関心ごとにプロジェクトを進めます。

味わう 分科会



活動のインパクトを、みんなで確かめ、よりよい形に育てていきます。その実績を、制度やビジネスにつなげるエビデンスにも。

ひろげる 情報発信・政策提言



うまくいった取り組みを科学的な根拠をもとに、日本へ、世界へ届けます。また、AnCo での活動を発信することで、新たな賛同者・メンバーを増やします。

「つながり」「文化」「経済」—— 本来は人の暮らしを支えるはずの資本ですが、現実にはその偏りや、世代をまたぐ引き継ぎ方が、格差の固定化を生んでいるとも言われています。だからこそ、すべての人にこの資本が行き渡るしくみをつくりたい。とくに、見過ごされてきた「つながり」と「文化」の資本を、経済のしくみにしっかり組み込んでいく必要があります。産学官民が連携しながら、文化で人と人がつながる「新しい共通資本」を育てていきましょう。

“分科会”の全体像を知る

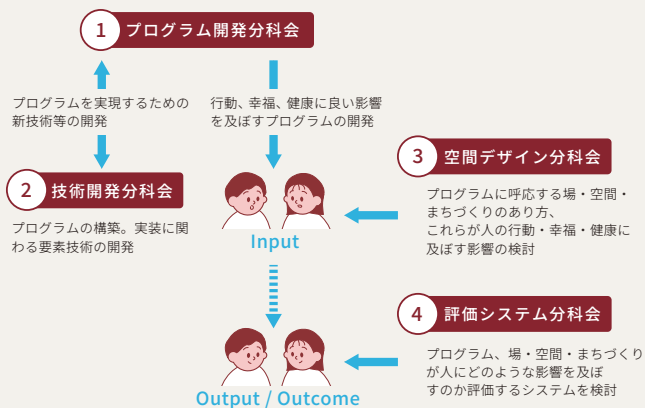
AnCo での主な活動である“分科会”は、メンバー同士がプロジェクトを進めるための会です。メンバーの関心をもつテーマごとに分科会を構築し、関連する知見・情報や、メンバーがもつソリューション・分析技術等の共有・認知度向上を図ります。会員が主体となって取り組みます。現状は4つの分科会がありますが、会員の関心に合わせて適宜増減をおこない、1〜2カ月に1回ペースで開催予定です。

コーディネーター

文化的・社会的処方開発部門
デザイン・実装部門

幹事機関：京都大学 社会疫学分野

幹事機関：千葉大学 予防医学センター



AnCoのセカイ

あんこの
景色

くり跳ねる街

日向久利 16歳。厳格な父親の「お前のためだ」という言葉に縛られ、妹を公園の遊具事故で亡くしたことで心を閉ざし、自分を責め続けてきた少年だ。学校にも行けなくなった久利に、スクールソーシャルワーカーは地域のクリエイティブを紹介した。カウセンリングを重ねるうち、佐藤先生は久利が時折、窓から見える近くの公園で行われるバルクールの練習を興味深そうに見ているのに気づいた。「もし興味があるなら、ちょっと見学してみよう。まずは『王田（ひび）』を訪ねてこらん。君が興味を持ったバルクールのサークルを紹介してくれるよ。もし合わないければ、他の活動を探せばいいよ」。佐藤先生は菓を出す代わりに、地域とつなぐエンバワメント・ハブを紹介した。「HBB」はAnCoの関係団体会員であり、AnCoでの

学びを活かして活動している。王田は若者から高齢者まで幅広い世代の人々が社会とつながるための多様なプログラムや情報を提供し、一人ひとりのペースを自然に一人ひとりのペースを自然にサポートする。久利はこそでリンクワーカーのあずきさんに会った。穏やかな雰囲気のあるあずきさんと話し、バルクールのサークル「ジャンプ」を訪れた。「おれ、あずきさんの紹介？俺は園野圭吾。みんなからはダンゴって呼ばれてる。ダンゴ自身もかつて同じように孤立し、佐藤先生の紹介でこのサークルに出会ったんだ。久利はメンバーのダイナミックな動きだけでなく、練習の合間に真剣に話し合う姿勢や、地域の自治会や公園管理者と対話し、活動場所の利用ルールや安全対策について協議している光景を目にする。

すぐに久利はバルクールの基本的な動きに挑戦し始めた。失敗と成功を繰り返す中で、身体が動かす純粋な楽しさと、失敗しても決してけなさず、励まし合える仲間と信頼関係が芽生えていく。久利はメンバーにかつての事故の記憶を話すと、ダンゴは「それは本当に君の責任か？遊具の安全性やまわりの環境はどうだったんだろう」と言った。その言葉をきっかけに、久利はアズキさんとサークルの仲間と共に、事故のあった公園の状況の調査、地域の公園の遊具の安全点検マップを作成し始めた。あずきさんはAnCoの分科会でこのことを話したところ、多くのメンバーが賛同し、プロジェクトを立ち上げるようになった。久利やあずきさんは地域で集会を開催し、利用者や公園管理者の声を聞いた。そこで出た声をもとに、大学の研究者は遊具の設置環境が子どもの発達やコミュニケーションに与える影響を計測した。地元企業は新しい安全

遊具のプロトタイプを試した。そして自治体はこうしたデータ公園づくりに生かした。妹の事故現場だった公園には、久利の思いを受けて新しい遊具エリアができ、地域の子どもたちの声や研究者の知見が活かされたデザインが形になった。久利の気づきは、やがて地域を動かしたのだ。久利の姿をみていた父親の態度にも変化があり、少しずつだが対話ができるようになっていた。久利は今、高卒認定試験を目指しながら、将来は都市デザインや地域づくりを学び、誰もが安心して笑顔を溢れる場所をつくりたいと思っている。ダンゴは言った。「お前と俺と、佐藤先生とあずきさん、みんな合わせて一栗入り饅頭」だ。地域をあんこみたいに甘く包んで、誰も置いていかないまちをつくらうぜ」。久利は笑った。かつて自分が息を詰めていた檻はもうない。これからは、誰かのために、誰かと一緒に跳べる。

※これはAnCoでの活動による人々の変化をイメージした物語です。